

「主体的に生きる」
～自立と社会参加、共生社会の実現～



奈良県特別支援学校長会
会長 梅田 真宏 氏
(奈良県立大淀養護学校長)

少しずつ寒さも和らぎ、暖かな陽ざしが春の訪れを感じられるようになりました。

一般社団法人奈良県手をつなぐ育成会の皆様には、日頃より奈良県の特別支援教育の充実、発展にご支援、ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

また、1963年に「奈良県手をつなぐ親の会」を結成し、「『この子らを世の光に』する運動を推進しよう」「本人と家族の人権を確立しよう」「地域で当たり前暮らしをさせる生活環境を創りだそう」の3つの基本方針のもと長きにわたり啓発活動を展開し、障害福祉の充実に大きく寄与されましたことに深く敬意を表します。

さて、今年度もコロナ禍の影響の中での一年となりました。学校生活においても、教育活動に多大なる影響をもたらし、当たり前のようにできていたことができなくなることも多くありました。

現在は、少しずつ活動を広げ、修学旅行や宿泊学習に加え、人数制限はあるものの体育大会や文化祭、授業参観などの各種行事等も行えるようになりました。更にICTを活用した教育の充実が推進され、新たな取り組みも進んでいます。

一方、体験的な活動の減少や交流及び共同学習、地域とのつながりも困難な状況がありました。居住地校交流・学校間交流などの直接交流がオンラインでの間接的なものへ移行し地域との関係も大きく変わりました。そんな中、2学期頃からは少しずつ改善がなされていると実感できるようになっています。以前の取組に戻るといった視点だけでなく、新たな取組を創り出すという視点での改善もなされてきています。

子どもたちも自分自身の健康についてしっかりと気をつけながら生活することを学んだり、様々な活動において、みんなで協力し合いながら楽しんだりできるようになりました。制約のある中で、学習に取り組み、仲間との絆を深め学校生活を送ることができたと思います。日々、頑張ってきた経験の積み重ねが、子どもたちの大切な財産となっています。

これからの世の中、楽しいことだけではなく、不安や不満がわき起こってくることも少なくないかもしれません。このような時代だからこそ、子どもたち一人ひとりを安全・安心な環境の中で、児童生徒の実態を的確に把握するとともに、教育的ニーズに応じた分かりやすい指導を行い、子どもたちの可能性を最大限に伸長する教育を行うとともに、一人一人の人格と人権を尊重し、人を思いやり、自分の意見や思いを伝え行動し、主体的に生きることができ児童生徒を育成するよう取り組んで参りたいと思います。

また、障害のある子どもたちへの支援に当たっては、行政分野を超えた切れ目ない連携が不可欠であり、一層の推進が求められているところです。

教育と家庭と福祉との連携協力のもと、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育システム構築、自立と社会参加に向けた取組を推進していきますので、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

終わりになりましたが、手をつなぐ育成会の皆様のご多幸とご活躍、貴会のさらなる充実、発展を心より祈念いたします。